

豊橋創造大学大学院健康科学研究科（修士課程） カリキュラムマップ

大学院研究科のディプロマポリシー					専攻のディプロマポリシー									
1. 修士課程健康科学研究科では、所定の年限在学し、研究指導を受け、所定の単位数を修得し、かつ本研究科が行う修士論文の審査及び試験に合格した者に修士の学位を授与する。 2. 修士課程修了にあたっては、専攻のディプロマポリシーに到達していることを目安とする。					1. 保健・医療・看護・介護・福祉など健康増進に係る専門分野における高度な専門的知識と研究技術を修得している。 2. 健康寿命の延伸に寄与する健康科学領域に関する多角的視点および問題解決に向けた適切な方策を提起すること態度を修得している。 3. 論理的な発表、論述および討論ができる能力を修得している。									
専攻のカリキュラムポリシー					専攻の学習成果									
<p>学問領域の構成</p> <p>保健・医療・看護・介護・福祉など健康増進に係る基礎的要素を涵養して新たなヘルスプロモーションを図る上で必要な知識や技能、態度を修得できるように学問領域を設定している。人の健康を害する障害と生体機能の回復・増進の支援についての知識・技術を集積する「リハビリテーション学領域」、人の生涯にわたっての健康支援や健康を維持・増進するためのケアについての知識・技術を集積する「看護学領域」および両領域に共通する福祉・医学等の「共通領域」から構成されている。</p> <p>科目編成</p> <p>専門とする研究領域とそれに関連する多様な科目はもちろん、他の研究領域や共通領域の科目等を幅広く履修して、本研究科の特色である多角的な視点から総合的・学際的な研究活動を実現させることを目的として、「基礎科目」「専門科目」および「課題研究科目」の3つの科目群に編成している。</p> <p>①基礎科目（必修科目）</p> <p>本研究科の総論・導入として基礎的な科目群である健康生活を支援するために必要な健康決定要因など健康科学に関する知識について、「心身機能・身体構造」と「病態」について人の生活行動に関係の深い「運動系」を中心に履修する「健康科学特論Ⅰ」および「障害者」「高齢者」「家族」「健康増進」の視点から再構成し、「健康長寿」を追究するための基礎的知識を習得する「健康科学特論Ⅱ」を配置している。</p> <p>②専門科目</p> <p>A)リハビリテーション学領域</p> <p>健康長寿社会に向けて運動・行動の身体活動を中心としたリハビリテーションの基盤となる知識・技術等および理学療法分野の指導者としての基礎を学ぶ「障害回復支援理学療法論」および「病態運動学論」、最先端知識・研究ならびに技術開発と普及の研究を行うため「地域連携特論」「神経系障害学特論」「運動機能解析学特論」「生体機能学特論」を配置している。</p> <p>B)看護学領域</p> <p>健康長寿社会に向けて看護に関して基盤となる知識を・技術ならびに指導者としての基礎を修得する「看護調整機能論」ならびに「家族ケア論」、最先端知識・研究ならびに技術開発と普及の研究をはかるため「家族支援看護学特論」「健康推進看護学特論」を配置している。</p> <p>C)共通領域</p> <p>リハビリテーション学と看護学の両領域に共通し、本研究科の特色である多角的な視点から総合的・学際的な研究活動を実現させ、専門分野をより深く学修することを支援する科目を配置している。</p> <p>③課題研究科目</p> <p>「健康科学特別研究」を必修としている。ここでは、研究計画立案および調査・実験計画作成に関する適切な指導を行うとともに、グループおよび個人対面による調査・実験・研究進行に関する議論を通じて、修士論文の完成に至る。</p>					<p>専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目。○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目。△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)</p>									
					健康生活を支援するために必要な健康決定要因など健康長寿を追求するための知識を修得する	健康長寿社会実現へ向けて基盤となる知識・技術や理学療法分野・看護分野・健康科学分野での指導者としての基礎を修得する	健康長寿社会実現に向けて運動・行動を中心としたリハビリテーションに関する研究を通して、最先端知識の獲得と普及のための基礎を修得する	健康長寿社会実現に向けて運動・行動を中心とした看護に関する研究を通して、最先端知識の獲得と普及のための基礎を修得する	多角的視点を養い総合的・学際的な知識を獲得する	健康長寿社会実現へ向けた知見の探求や技術開発などを通して、論理的考察とプレゼンテーション技術を修得する				
科目区分	科目コード	科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数			開講時期(●)		◎	○	◎	○	
					必修	選択	自由	1年	2年					春
基礎科目	5101	健康科学特論Ⅰ	健康生活を支援するために必要な健康決定要因など健康科学に関する知識の修得に当たり、「心身機能・身体構造」について人の生活行動に関係の深い「運動系」を中心に、神経系、運動器系、呼吸循環器系の構造・機能・病態から再構成し、基礎医学、臨床医学およびリハビリテーション学ならびに看護学の各分野の担当教員がオムニバス方式で講義し、健康の回復・維持・増進の支援に関する専門的知識を再構成し、「健康長寿」を追究するための基礎的知識を修得する。	①健康の定義を説明できる。 ②人体の生理機能、特に骨格筋の可塑性について説明できる。 ③環境に対する生理機能の適応を説明できる。 ④主要な神経疾患における病態と機能回復について説明できる。 ⑤虚血性心疾患、呼吸器疾患ならびに消化器疾患の病態と治療について説明できる。 ⑥「歩行の回復と運動学」運動力学により説明できる。 ⑦歩行の分析法の特徴ならびに意義を説明できる。 ⑧歩行の分析方法について概要を説明できる。	2				●		◎	○	◎	○
	5102	健康科学特論Ⅱ	健康科学特論Ⅰに引き続き、ICF（International Classification of Functioning, Disability and Health）に基づく「人間の生活機能と障害分類法」に従い、「活動（activities）と参加（participation）」について、「障害者」「高齢者」「家族」「健康増進」の視点から再構成し、リハビリテーション学ならびに看護学の各分野の担当教員がオムニバス方式で講義するとともに、健康の回復・維持・増進を支援に関する専門的知識を再構成し、「健康長寿」を追究するための基礎的知識を修得する。	①健康とは何か定義づけ、解説できる。 ②障害と健康との関係を解説できる。 ③健康増進のための介入方法を理解し、説明できる。 ④高齢者・障害者の健康問題と支援方法を解説できる。 ⑤性まつわる健康問題と支援方法を解説できる。 ⑥WHOの健康政策推進に関して解説できる。	2				●		◎	○	◎	○

5110	生体機能学特論	様々な刺激に対する応答から生活の質(QOL)および健康の維持増進に関連する先行研究を中心に比較検討し、総合的かつ専門的知識と技術を学修すると共に、研究実施に向けた研究計画の立案と方法の選択を行う。	⑤ 研究目的に適合した実験結果の収集法を選択し、その妥当性を説明できる。 ⑥ 研究目的に適合した実験データの解析を選択し、その妥当性を説明できる。 ⑦ 計画を立案できる酸塩基平衡とその仕組みを説明できる。 ⑧ 研究報告書を作成できる。 ⑨ 研究結果を発表し、その実験結果について議論できる。	4	●					◎	◎				○
5111	終末期リハビリテーション特論	従来のリハビリテーションは急性期、回復期、維持期と構成されているが、人間として尊厳ある死を計画的に迎える、すなわち終末期に向かって展開されるリハビリテーションが近年提唱されつつある。この特論では、この時期にリハビリテーションとしてどのような介入が可能か考察し、改めてリハビリテーション技術のあり方と効果を検証する。可能であれば集中講義形式で、実際の臨床の場で実技を行う。	① 終末期リハビリテーションの特徴を説明できる。 ② 終末期リハビリテーションの方法論を概説できる。 ③ この時期の介入方法の8領域の基本的な手技を展開できる。	4	●					◎	◎				○
5112	理学療法学教育論	理学療法学領域で行われる教育活動の内容を精査して、方法論、効果的な教授活動、効果判定法に検討を加え、効果的な講義と実技のあり方を考察する。特に、臨床実習指導の問題点と今後のあり方を検討する。			●					◎	○				
5124	母性看護学特論	女性および家族が親となる過程やそれに伴って生じる健康上の変化・諸問題について理解し、親への移行を円滑にするために、母性および父性発達、親子関係成立に向けての援助方法について理論的背景、研究方法を学習する。 また、女性の生涯に渡る健康問題に焦点をあて、健康回復・維持・増進を図るための看護援助(介入)の方法やそれらの研究の現状を学習する。 テキストおよび文献クリティークを中心に、ディスカッションを通して専門的な知識を主体的に学び自己の課題および研究方法を明確にし、研究能力を修得する。		4	●					◎		◎			○
5125	コミュニティヘルスケア特論	今日のWHO政策およびわが国における健康政策を基本に進める。看護の対象者のすべての人々に、特に一次予防の意義の理解と支援方策を学修し、健康の保持、増進施策を推進する。健康増進策に関する理論およびモデルに導かれる研究概念の構図作成から具体策と結果を文献や実践事例を通して検討し、根拠をもった検証の意義と健康向上への効用を明らかにする。		4	●					◎		◎			○

5126	在宅・家族看護学特論	<p>今まで家族に求められていた基本的な生活基盤を支えることが、家族構成の変化から家族にその機能を求めることが困難になってきており、我が国の訪問看護制度は20年ほどの歴史と浅いものの、訪問看護は社会の要請にこたえるべく著しく発展している。在宅・家族看護学特論では、社会の変化とともにそのあり方も変わってきている家族をふまえ、在宅看護の発展に寄与できるよう、家族看護学・在宅看護学とその研究の動向について学修する。</p>	<p>① 在宅看護学の概念、活用する理論および法律の体系について説明できる。 ② 在宅看護の対象の特徴について説明できる。 ③ 在宅ケアチームにおける多職種連携と看護の役割について説明できる。 ④ 在宅看護学の研究の動向について説明できる。 ⑤ 日本の家族の変遷と現状について説明できる。 ⑥ 家族看護学に関する理論について説明できる。 ⑦ 家族看護学の視点をふまえて看護を説明できる。 ⑧ 家族看護学の研究の動向について説明できる。</p>	4		●			◎		◎		○
5127	実践看護基礎学特論	<p>看護学全体の内容的な構造を検討した上で実践基礎看護学の意義、位置づけを考察する。また、看護の本質と目的、対象、看護技術、実践への手だてに関する研究成果を理論的および時代のトピックス性の観点から検討する。さらに、これらの領域において課題となっている事象に対し、取り組む研究方法についても考察する。</p>	<p>1. 看護学全体の内容を概観し内容的な構築と全体の構造をとらえ、実践をふまえた看護学の位置づけを理解する。 2. 質の高い看護実践をめざす看護の本質、概念について、理論家の多様な主張を含め、多角的な見地から検討し理解する。 3. 看護の対象についてのとらえ方、見方について、研究成果を含む多様な見地から検討し理解する。 4. 看護実践の方法論として、看護技術の意義、概念、構造等について、研究成果を含む多様な見地から検討し理解する。 5. 理論的な看護実践の方法論として、看護過程、アセスメント、看護診断、介入、成果等の実践への活用について吟味を加えた上で理解する。 6. 看護学の基盤となり、かつ時宜を得た研究課題、特徴的な研究方法について具体的に検討し考察する。</p>	4		●							
5128	看護倫理論	<p>看護倫理の意義とその必要性について哲学的、理論的、社会的な見地から考察でき、「倫理」の概念、本質、原則、倫理的なジレンマについて理解する。同時に、生命倫理の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地等についても理解する。また、医療および看護場面における倫理的ジレンマについて多様な観点から考察し、看護実践に活用出来るモチベーションを高めると共に、その専門領域に関する具体的な倫理的ジレンマについて、倫理的な調整等、解決策を含めた考察を深める。さらに看護倫理に対する研究的な課題とアプローチおよび看護倫理に関する組織的な取り組みについても理解する。</p>	<p>1. 看護倫理の意義とその必要性について理論的、社会的な見地から考察できる。 2. 伝統的倫理学と近代的倫理学の概括から理論的基盤に基づき、倫理的「倫理」の概念、原則、倫理的なジレンマについて理解する。 3. 生命倫理の考え方の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地から、そのあり様を理解する。 4. 看護倫理の概念、本質、哲学的な基盤、意義について理解する。 5. 看護倫理を実践していく上で必要なコンピテンシー、方法について理解出来る。 6. 医療および看護場面における倫理的ジレンマについて多様な観点から考察し、看護実践に活用出来るモチベーションを高める。専門看護師をめざすものについては、その領域に関する倫理的なジレンマについて考察を深める。 7. 看護倫理に対する研究的な課題とアプローチ、看護倫理に関する組織的な取り組みについて理解する。</p>	2		●							

5129	看護理論	<p>看護理論および周辺諸理論を体系的に理解し看護実践への活用をめざす。この活用に向けて、看護理論を体系的に概観し、諸理論の変遷と内容的構造及び特徴を理解する。主要な看護理論家の看護モデルについて、その哲学的基盤、概念及び看護の実践/教育/研究への活用について理解する。広範囲理論であるロイ適応理論により、これら理論の実践への活用をより具体的に理解する。また、自ら関心ある領域において、その看護理論及び諸理論の適用の妥当性を考察したうえで、実践/研究/教育への具体的な活用について検討する。</p>	2		●																															
5131	適応生理学論	<p>生体諸機能は、種々の刺激(ストレス)を受容し、それに応答・適応する。さらに、発育・発達・成熟・老化や様々な疾病・疾患により生体の機能は大きく変容する。本講義では、生活の質(Quality of Life)や健康の維持増進において主要な臓器である骨格筋を対象に、様々な刺激(ストレス)に対する生体応答と適応機構に関する知識および予防医学から運動、疲労、休養など多角的な視点から健康を取り巻く総合的な知識を修得する。</p>	2		●		○												○																	
5132	医療統計論	<p>健康科学領域における統計処理で基礎となる問題の理解を深める。リハビリテーション学領域および看護学領域のデータ処理は、基礎的な統計手法だけではカバーしきれないことも多いので、基礎的な統計学を中心とするが、並行してコンピュータの進歩とともに広がってきた新しい手法も取り上げ、健康科学関連データの処理について学習する。</p>	2		●			○																												

専門基礎領域

5133	生 体 構 造 論	細胞、組織、中空性器官および中実性器官の基本的構造および特異的構造について学習し、各器官各部の機能との関連性、組織・器官形成と個体の左右対称性・非対称性との関連性について考察する。基本要素である細胞の生体膜系分子構築と超微構造、細胞の形態維持と細胞運動に関連する構造、細胞レベルの情報伝達系および器官・個体レベルの構造と情報伝達系について解説する。さらに、形態形成関連遺伝子とそれらの発現機構、立体構造の構築過程とその制御機構、細胞・組織・器官レベルでの機械的情報および4次元情報の受容と処理に関する機構解明の現状について運動器系を中心に解説し、生体構造の形成・維持の制御機構解明の方法論の問題点を討論・考察する。	1.細胞内構造物および組織の特異的構造と機能との関連を説明できる。 2.中空性器官および中実性器官の基本構造と特異的構造・機能が説明できる。 3.器官系の左右対称性・非対称性と器官系発生との関連性について説明できる。 4.DNAの構造と機能について説明できる。 5.形態形成に関与するDNA群について説明できる。 6.細胞、器官各部、個体レベルの情報伝達・処理系について説明できる。 7.運動器および神経系の形態形成と構造維持について説明できる。 8.現在における4次元情報の処理および構造の形成・維持の制御解析法の問題点について考察する。	2	●				○		○	○	◎	
5134	研 究 論	社会調査、ブレイン・ストーミングとKJ法、実験的研究、疫学研究および質的研究の各種研究の持つ意味と目的を正しく理解するとともに、実際の研究を通して現状や問題点の把握、研究計画の立案、解決方策の探求ならびに課題のまとめ方を理論的に遂行する方法について学修する。	① 社会調査方法の特徴を説明することができる。 ② KJ法を用いた研究の特徴を説明できる。 ③ 実験的研究の特徴を説明できる。 ④ 質的研究の特徴を説明することができる。 ⑤ 研究の展開方法を説明し、研究計画を立案できる。	2	●				○	○	○	○	◎	
5135	対人コミュニケーション論	私たち人間は、他のモノから同種の仲間であるヒトを峻別し、ヒトならではのコミュニケーションを行う。その過程には、視線、顔、音調などの非言語的情報だけでなく、音声言語・文字などの言語的情報によるものなど、さまざまな様式の情報処理過程を含む。その発達と障害・病態およびその脳内処理過程について、最新の知見も踏まえて講義するとともに、社会の人々の精神的健康を支援・増進するという立場から、現代社会における対人コミュニケーションの重要性と問題点について検討を行う。	①コミュニケーションの構成要素を説明できる。 ②対人間でやりとりされる情報を列挙できる。 ③対人間でやりとりされる情報の発信と解釈に関する発達、性差、年齢差、文化差等について、説明できる。 ④対人コミュニケーションにかかわる障害およびその脳内過程について説明できる。 ⑤コミュニケーションそのものに関する問題とコミュニケーションを通して介入できる問題とを区別できる。 ⑥対人コミュニケーションに関して発生しやすい具体的な事例に対して、解決に向けて介入するための何らかの提案ができる。	2	●				○	○			◎	

5138	コンサルテーション論	対人援助専門職者として、またチーム医療の一員として援助的人間関係の在り方については常に意識を向けておく必要がある。有効な援助とそうでない援助にはどんな違いがあるのか。援助が効果的である時、援助者と被援助者の間にどのような相互作用が生まれるのか。医療現場におけるコンサルテーションについて事例を用いて、具体的に考察する。これらの学習を通して、医療現場における高度専門職者として相談、調整、指導、倫理の機能を果たす基盤を養う。	高度医療専門職者として臨床現場におけるさまざまな場面で効果的なコンサルテーションを実施できるよう、関連する主要理論の理解及び面接技法の修得等コンサルテーション能力を養う。 具体的には以下を目標とする。 1.事例検討において積極的に他者の行ったコンサルテーションについてクリティークできる。 2.これまでに自身が実施したコンサルテーションについて事例検討し、評価、改善すべき点を述べることができる。 3.高度専門職者として援助的人間関係を構築するために抑えるべき留意点について説明できる。 4.コンサルタントとして意識しておくべき倫理的問題について説明できる。	2			●						○		○		○		◎	
5139	老年期地域健康支援論	生活習慣病の予防、介護予防など地域の老年期の健康支援対策について、その対象、方法、効果判定、調査研究方法を考察する。また、他職種との連携構築についても考察する。	① 生活習慣病の予防方法を説明できる。 ② 老年期の健康支援対策について、説明できる。 ③ 支援の効果判定方法を概説できる。	2			●							○		○		○		◎
5141	健康科学特別研究 I	生体は、種々の刺激(ストレス)を受容し、それに応答・適応する。さらに、発育・発達・成熟・老化や様々な疾病・疾患により生体の機能は大きく変容する。本特別研究では、骨格筋を主たるターゲットとし、骨格筋機能に関連する様々な生体機能とそれらに影響を与える因子を探求すると共に、生活の質(Quality of Life)や健康を維持増進していくために必要な生体応答に関する総合的な課題についての研究指導を行う。実際の研究活動を通して、生体機能の回復・維持・増進のための方策の計画・立案についての専門的知識や技能を関連する新たな知識を追求する。関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法を選択し、関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という研究を健康科学特別研究ⅡからⅢへと順次展開	① 研究テーマ候補を選択し、関連する先行研究を収集できる。 ② 適切な研究目的の設定と方法の選択ができる。 ③ 研究を実施できる。 ④ 結果の吟味と考察できる。 ⑤ 修士論文を作成できる。 ⑥ 研究成果を発表し、討論できる。	2				●										◎		◎
5141	健康科学特別研究 I	人は、日常生活において、立つ、座る、歩く、などの各動作を繰り返し行っている。健康生活の維持、健康寿命の延伸のためには、これらの動作を行うための筋骨格系運動機能の増進・維持・回復が必要であり、欠かすことが出来ない。そのため、3次元運動解析技術を用いて各種動作を生体力学的に分析し、運動障がい回復のためのリハビリテーション技術に係る課題の研究指導を行う。実際の研究活動を通して、運動機能の回復・維持・増進のた	① 研究テーマ候補を選択し、関連する先行研究を収集できる。 ② 適切な研究目的の設定と方法の選択ができる。 ③ 研究を実施できる。 ④ 結果の吟味と考察できる。	2				●										◎		◎

		めの方策の計画・立案についての専門的知識や技能を関連する新たな知識を追求する。健康科学特別研究Ⅰでは、関連する先行研究を収集し、適切な研究目的の設定と方法の検討を行っていく。	⑤ 修士論文を作成できる。 ⑥ 研究成果を発表し、討論できる。																	
5141	健康科学特別研究Ⅰ	我が国は急速な少子高齢化と医療の高度化を背景に、医療費は高騰し、その抑制策として、在院日数の短縮と在宅医療の充実が進められ、「地域包括ケアシステム」構築をめざしているところである。在宅医療の充実において重要な役割を担っているのが、訪問看護師であり、学問の背景としての在宅看護学のエビデンスの蓄積が期待されている。健康科学研究Ⅰでは、在宅看護学に関する先行研究の収集と文献検討、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という実際の研究活動を、健康科学特別研究Ⅱへと健康科学特別研究Ⅰに引き続き、生体は、種々の刺激(ストレス)を受容し、それに応答・適応する。さらに、発育・発達・成熟・老化や様々な疾病・疾患により生体の機能は大きく変容する。本特別研究では、骨格筋を主たるターゲットとし、骨格筋機能に関連する様々な生体機能とそれらに影響を与える因子を探索すると共に、生活の質(Quality of Life)や健康を維持増進していくために必要な生体応答に関する総合的な課題についての研究指導を行う。実際の研究活動を通して、生体機能の回復・維持・増進のための方策の計画・立案についての専門的知識や技能を関連する新たな知識を追求する。関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法を選択し、関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という研究を健康科学特別研	① 研究テーマの候補を選択し、関連する先行研究を収集できる。 ② 先行研究の文献検討から適切な研究目的の設定と方法の選択ができる。 ③ 研究を実施できる。 ④ 結果の吟味と考察ができる。 ⑤ 修士論文を作成できる。 ⑥ 研究成果を発表し、討論できる。	2							●						◎			◎
5141	健康科学特別研究Ⅱ	健康科学特別研究Ⅰに引き続き、健康生活の維持、健康寿命の延伸のための筋骨格系運動機能の増進・維持・回復について検討を進める。そのため、3次元運動解析技術を用いて各種動作を生体力学的に分析し、運動障がい成立機序や運動障がい回復のためのリハビリテーション技術に係る課題の研究指導を行う。実際の研究活動を通して、運動機能の回復・維持・増進のための方策の計画・立案についての専門的知識や技能を関連する新たな知識を追求する。関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法を選択し、関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という研究を健康科学特別研	① 研究テーマ候補を選択し、関連する先行研究を収集できる。 ② 適切な研究目的の設定と方法の選択ができる。 ③ 研究を実施できる。 ④ 結果の吟味と考察できる。 ⑤ 修士論文を作成できる。 ⑥ 研究成果を発表し、討論できる。	4							●						◎			◎
5142	健康科学特別研究Ⅱ	健康科学特別研究Ⅰに引き続き健康生活の維持、健康寿命の延伸のための筋骨格系運動機能の増進・維持・回復について検討を進める。そのため、3次元運動解析技術を用いて各種動作を生体力学的に分析し、運動障がい成立機序や運動障がい回復のためのリハビリテーション技術に係る課題の研究指導を行う。実際の研究活動を通して、運動機能の回復・維持・増進のための方策の計画・立案についての専門的知識や技能を関連する新たな知識を追求する。関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法を選択し、関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という研究を健康科学特別研	① 研究テーマの候補を選択し、関連する先行研究を収集できる。 ② 先行研究の文献検討から適切な研究目的の設定と方法の選択ができる。 ③ 研究を実施できる。 ④ 結果の吟味と考察ができる。	4							●						◎			◎

		収集、適切な研究目的の設定と方法を選択し、関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という研究を展開する。	⑤ 修士論文を作成できる。 ⑥ 研究成果を発表し、討論できる。																		
5140	健康科学特別研究Ⅲ	我が国は急速な少子高齢化と医療の高度化を背景に、医療費は高騰し、その抑制策として、在院日数の短縮と在宅医療の充実が進められ、「地域包括ケアシステム」構築をめざしているところである。在宅医療の充実において重要な役割を担っているのが、訪問看護師であり、学問の背景としての在宅看護学のエビデンスの蓄積が期待されている。健康科学特別研究Ⅱに引き続き、健康科学研究Ⅲでは、在宅看護学に関する先行研究の収集と文献検討、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という実際の研究活動を展開する。連する新たな知識を追求する。関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法を選択し、関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という研究を展	① 研究テーマの候補を選択し、関連する先行研究を収集できる。 ② 先行研究の文献検討から適切な研究目的の設定と方法の選択ができる。 ③ 研究を実施できる。 ④ 結果の吟味と考察ができる。 ⑤ 修士論文を作成できる。 ⑥ 研究成果を発表し、討論できる。	6								●			◎				◎		◎